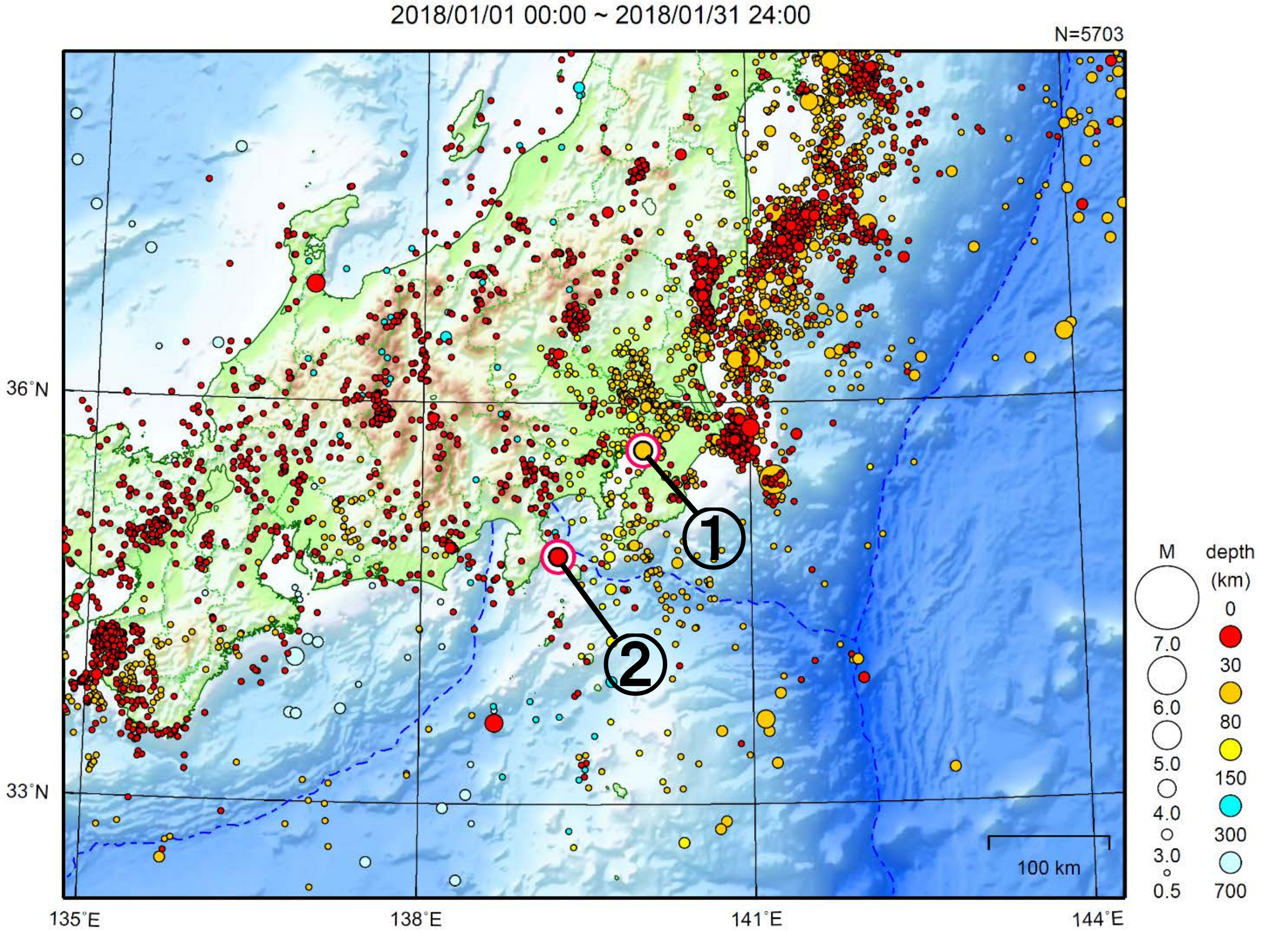
関東・中部地方

2018/01/01 00:00 ~ 2018/01/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

① 1月6日に東京湾でM4.7の地震（最大震度４）が発生した。

情報発表に用いた震央地名は〔千葉県北西部〕である。

② 1月6日に伊豆半島東方沖でM4.5の地震（最大震度３）が発生した。

情報発表に用いた震央地名は〔伊豆大島近海〕である。

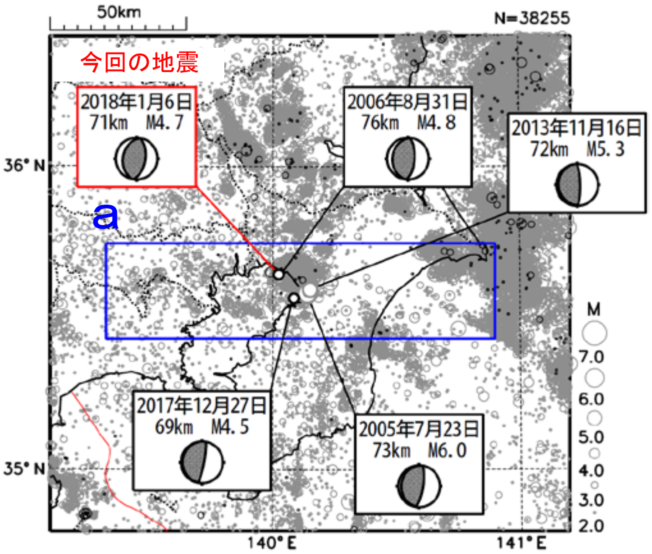
［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

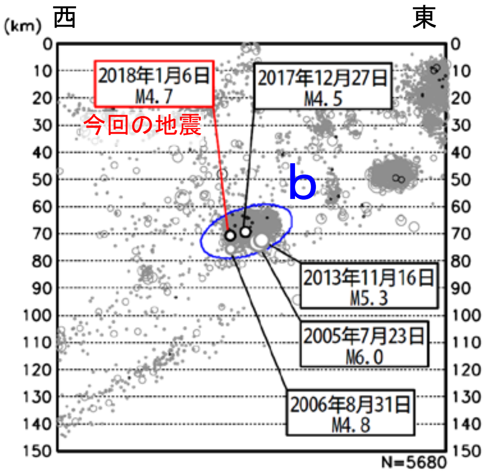
１月６日　東京湾の地震

※情報発表に用いた震央地名は〔千葉県北西部〕である。

震央分布図
（1997 年 10 月１日～2018 年１月 31 日、
深さ０～150km、M≧2.0）
2017 年 12 月以降の地震を濃く表示



領域ａ内の断面図（東西投影）

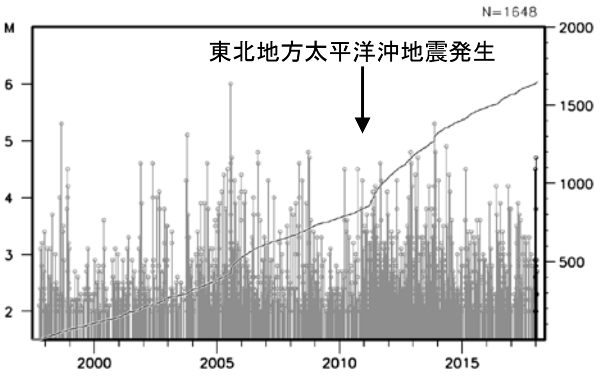


2018 年１月６日 00 時 54 分に東京湾の深さ 71km で M4.7 の地震（最大震度４）が発生した。この地震は、発震機構が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した。今回の地震の震源付近では、2017 年 12 月 27 日にも M4.5 の地震（最大震度３）が発生した。

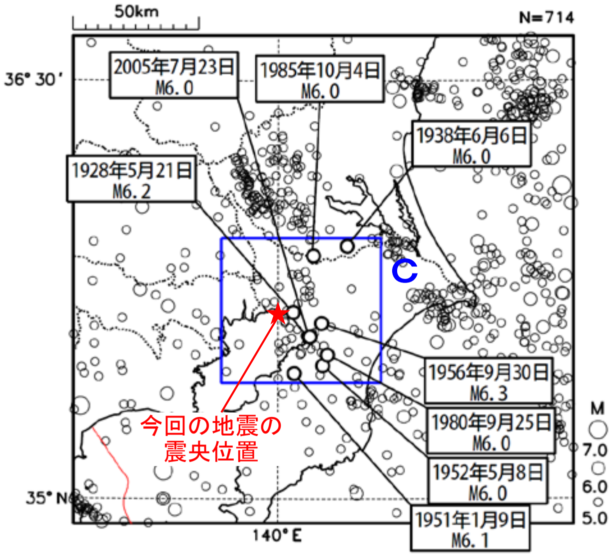
1997 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域ｂ）は、M5.0 以上の地震が時々発生するなど地震活動が活発な領域であり、東北地方太平洋沖地震の発生以降、地震活動がより活発になっている。最近では、2005 年７月 23 日に発生した M6.0 の地震（最大震度５強）により、負傷者 38 人、住家一部破損 12 棟などの被害が生じた（総務省消防庁による）。

1923 年１月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域ｃ）では、M6.0 程度の地震が時々発生している。このうち、1980 年９月 25 日に発生した M6.0 の地震（最大震度４）では、死者２人、負傷者 73 人などの被害が生じた（「日本被害地震総覧」による）。

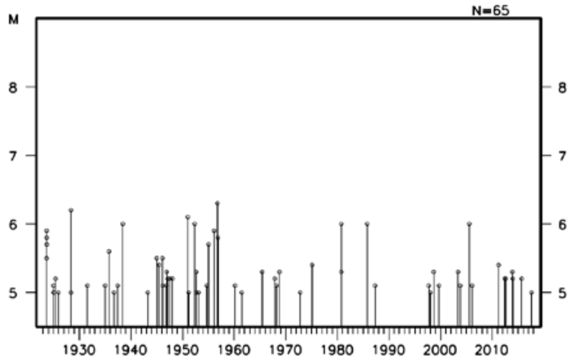
領域ｂ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図



震央分布図
（1923 年１月１日～2018 年１月 31 日、
深さ０～150km、M≧5.0）



領域ｃ内のＭ－Ｔ図

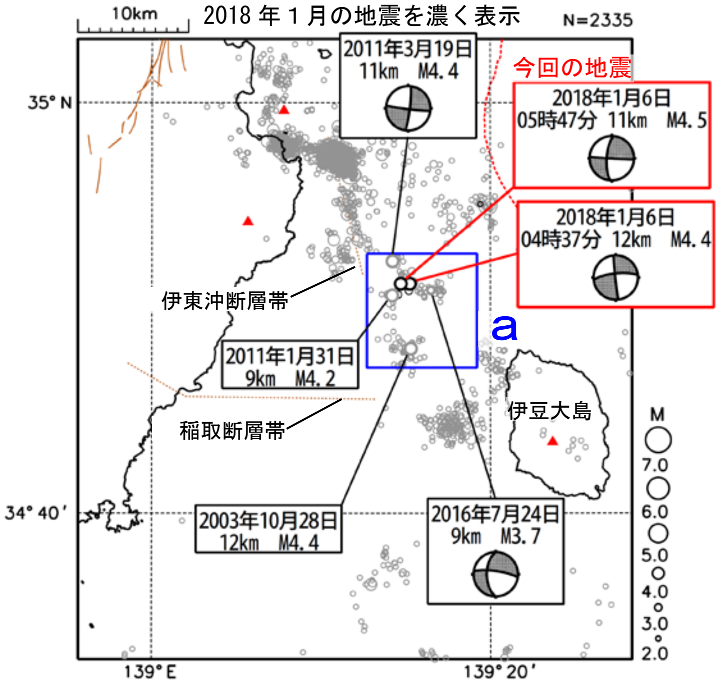


気象庁作成

１月６日　伊豆半島東方沖の地震

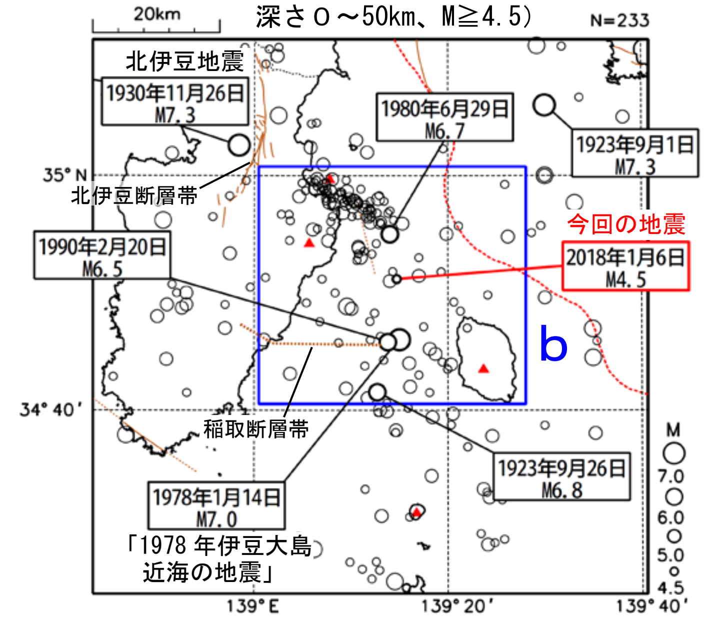
※情報発表に用いた震央地名は〔伊豆大島近海〕である。

震央分布図（1997 年 10 月１日～2018 年１月 31 日、深さ０～20km、M≧2.0）
2018 年１月の地震を濃く表示



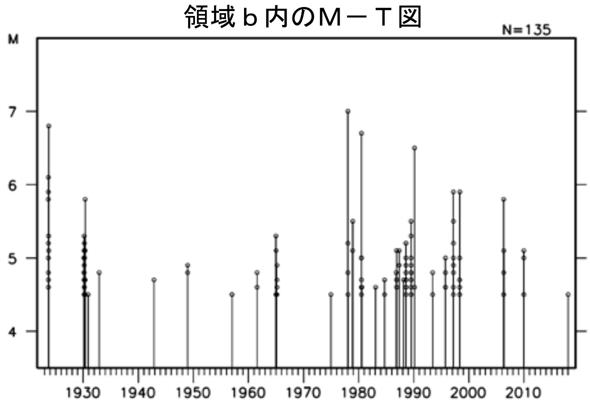
図中の茶色の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す
※▲は活火山を示す

震央分布図（1923 年１月１日～2018 年１月 31 日、深さ０～50km、M≧4.5）



図中の茶色の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

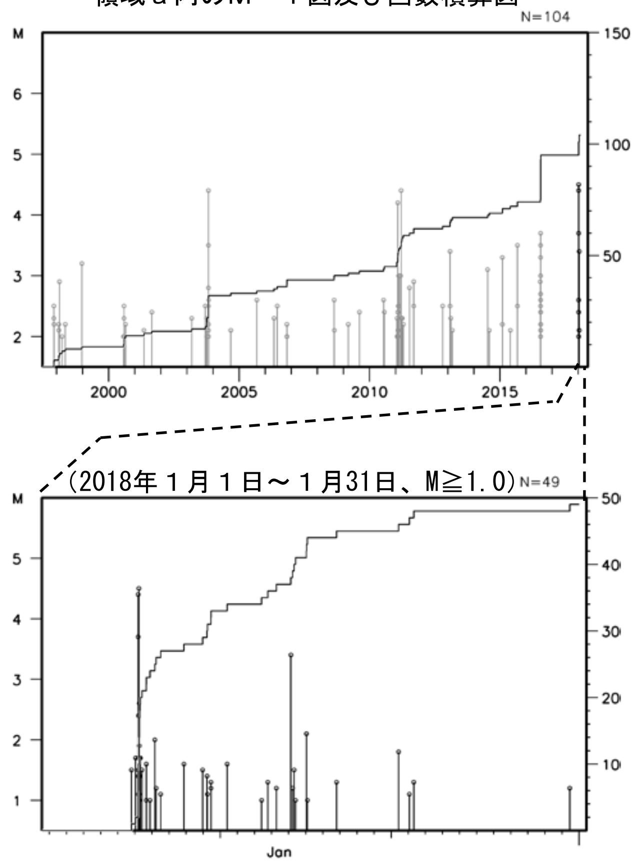
領域ｂ内のＭ－Ｔ図



2018 年１月６日 05 時 47 分に伊豆半島東方沖の深さ 11km で M4.5 の地震（最大震度３）が発生した。この地震はフィリピン海プレートの地殻内で発生した。発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。また、同日 04 時 37 分に M4.4 の地震（最大震度３）が発生するなど、今回の地震の発生前後には、地震活動がやや活発となった。

1997 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域ａ）では、2003 年、2011 年、2016 年にもやや活発な地震活動がみられている。

領域ａ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図



1923 年１月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｂ）では、M6.5 以上の地震が４回発生している。最大規模の地震は、稲取断層帯の最新の活動である「1978 年伊豆大島近海の地震」の M7.0 で、この地震により、伊豆半島で死者 25 人、負傷者 211 人、住家全壊 96 棟等の被害が生じた（「日本被害地震総覧」による）。また、伊豆大島岡田で約 70cm（最大全振幅）等の津波が観測された（「験震時報第 43 巻」による）。

気象庁作成